

Finance × Statistics

03 FinStat

垂直統合データ分析の全体像と実演

財政課職員が、実務で抱く「素朴な疑問」と「切実な願望」を、自力で形にするDIYツール



統計データ（マクロ）と財務データ（ミクロ）の垂直統合プラットフォーム

開発の思想

現場の疑問やニーズに
即応するため内製化

何をしたいのか？

勘と経験による議論を
事実（データ）による対話に変える

実務の手で作ри、事実で動かす

| 01 背景と着眼点

あつぎはこんなまち
逃げ場のない包囲網
眠れるデータ資産
既存ツールの限界
目指した姿

| 02 実証から実装へ

プロトタイプ実証
属人化の壁
チームビルディング
データ構造の標準化
再現性の確保

| 03 FinStat

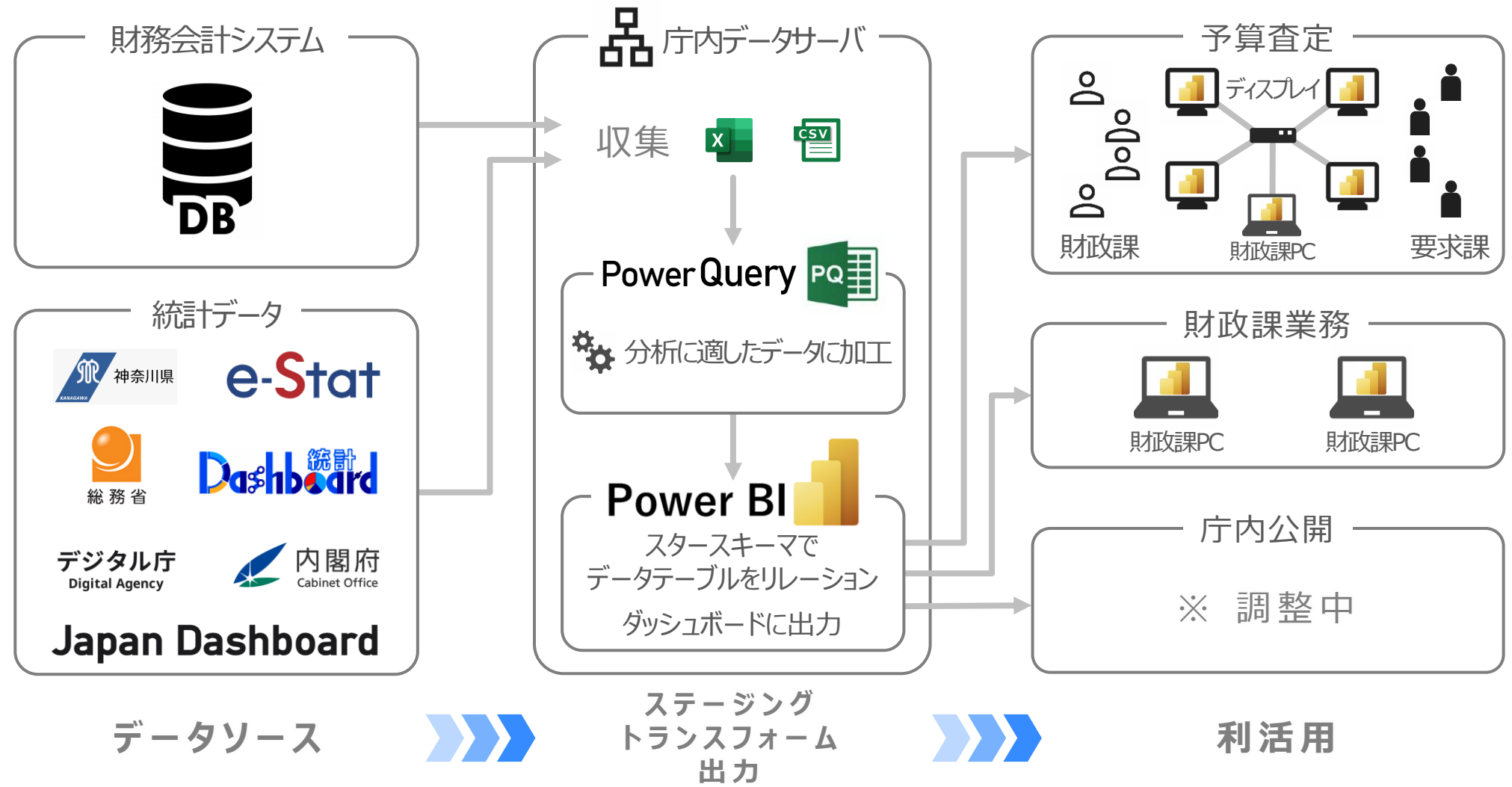
FinStatの開発
データ分析全体像
ドリルダウン実演
期待される導入効果

| 04 事実に基づく合意形成

統計と財務の相互補完
データ基盤の自律的成長
結び

| 資料（機能紹介）

データ分析の全体像



01 背景と着眼点

あつぎはこんなまち
逃げ場のない包囲網
眠れるデータ資産
既存ツールの限界
目指した姿

02 実証から実装へ

プロトタイプ実証
属人化の壁
チームビルディング
データ構造の標準化
再現性の確保

03 FinStat

FinStatの開発
データ分析全体像
ドリルダウン実演
期待される導入効果

04 事実に基づく合意形成

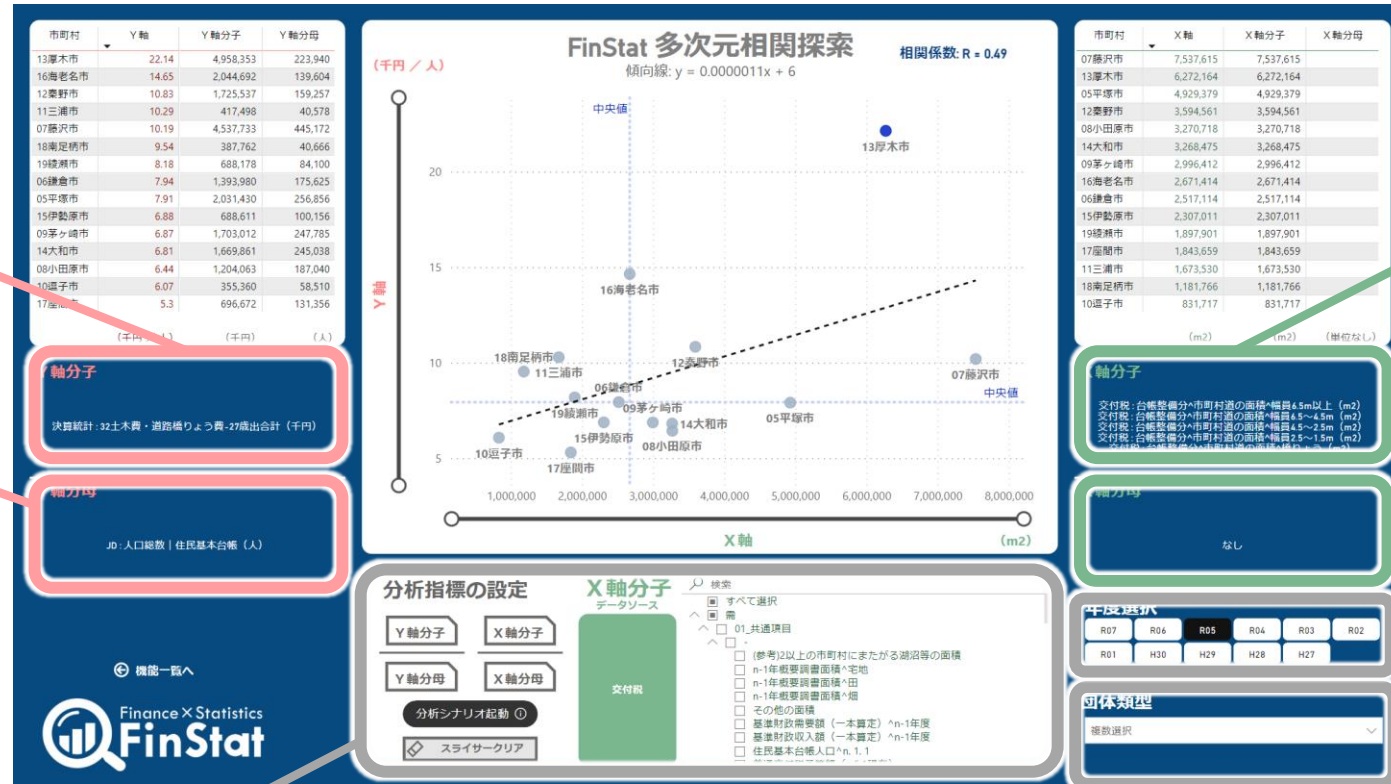
統計と財務の相互補完
データ基盤の自律的成長
結び

資料 (機能紹介)

多次元相関探索とドリルダウン実演

1 「多次元相関探索」のセッティング

(軸項目分母分子自由選択組合せ型自治体水準比較散布図)



Y 軸分子
決算統計
土木費-道路橋りょう費
歳出総額 (千円)

Y 軸分母
Japan Dashboard
住民基本台帳人口
(人)

X 軸分子
交付税基礎数値
台帳整備市町村道
面積-幅員非限定
(m²)

X 軸分母
選択なし

年度選択
R05

団体類型
保健所政令市
施行時特例市
一般市

XY軸分母分子
セッティングスライサー

人口 1 人あたり道路橋りょう費 (千円) × 市道路面積 (m²)
の自治体間水準比較



01 背景と着眼点

あつぎはこんなまち
逃げ場のない包囲網
眠れるデータ資産
既存ツールの限界
目指した姿

02 実証から実装へ

プロトタイプ実証
属人化の壁
チームビルディング
データ構造の標準化
再現性の確保

03 FinStat

FinStatの開発
データ分析全体像
ドリルダウン実演
期待される導入効果

04 事実に基づく合意形成

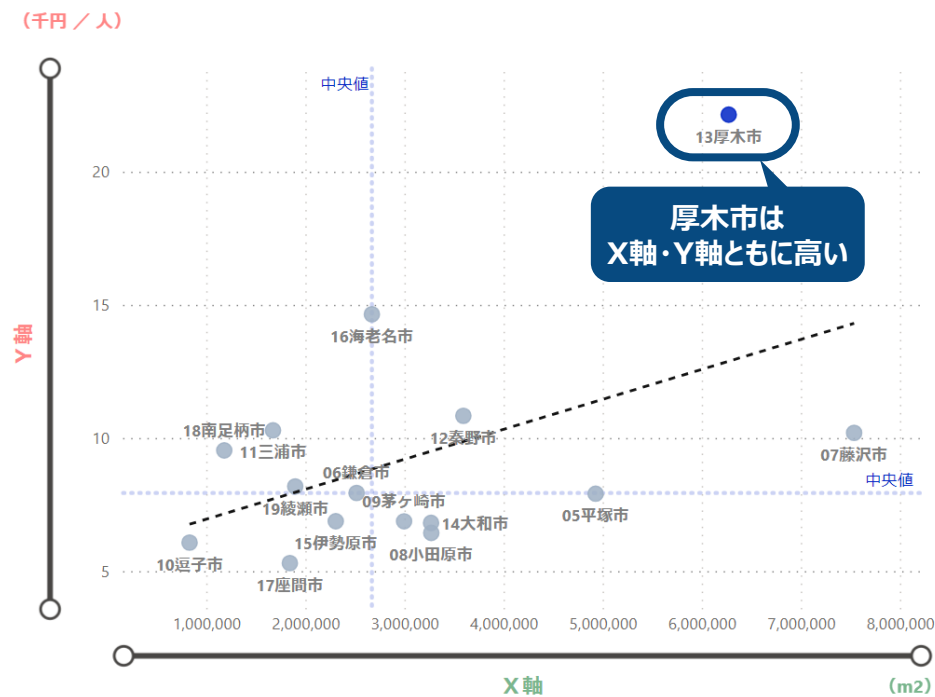
統計と財務の相互補完
データ基盤の自律的成長
結び

資料 (機能紹介)

多次元相関探索とドリルダウン実演

1 異常値の確認と仮説構築

人口1人当たり道路橋りょう費 × 道路面積



可視化による気づき

X軸 (道路面積) : 右側

➡市町村道面積が大きい = 「守るべきインフラ量が多い」

Y軸 (コスト) : 上側

➡人口一人当たり道路橋りょう費が高い = 「市民一人当たり負担大」

市道面積が広く、支えるべきインフラ多く市民の負担は大きくなりやすい構造となっているが…

一人当たりコストは他団体と比べ圧倒的に高い。

仮説

国から補助をもらって、大規模な道路建設 (補助事業) を進めていることが原因か？



実際のところどうなのか？ **深掘りする**

Y軸:人口1人当たり道路橋りょう費

分子
 決算統計
 土木費-道路橋りょう費
 歳出総額 (千円)

分母
 Japan Dashboard
 住民基本台帳人口 (人)

X軸:市町村道面積

分子
 交付税基礎数値
 台帳整備市町村道面積

分母
 幅員非限定 (m)

選択なし

01 背景と着眼点

あつぎはこんなまち
 逃げ場のない包囲網
 眠れるデータ資産
 既存ツールの限界
 目指した姿

02 実証から実装へ

プロトタイプ実証
 属人化の壁
 チームビルディング
 データ構造の標準化
 再現性の確保

03 FinStat

FinStatの開発
 データ分析全体像
 ドリルダウン実演
 期待される導入効果

04 事実に基づく合意形成

統計と財務の相互補完
 データ基盤の自律的成長
 結び

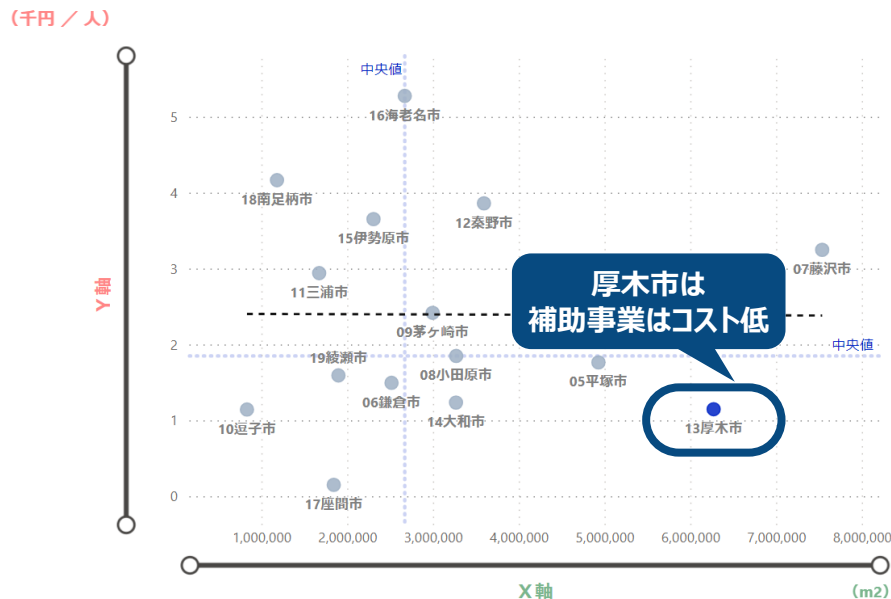
資料 (機能紹介)

多次元相関探索とドリルダウン実演

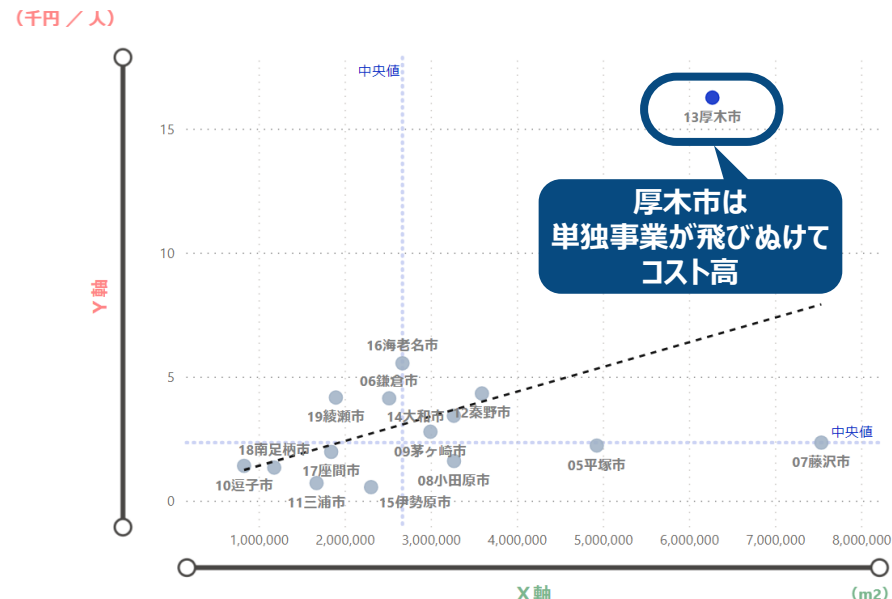
2 分析粒度を上げての仮説検証（ドリルダウン）

仮説検証

仮説の検証のため、決算額の粒度を上げて(細かくして)、補助事業/単独事業に分けて分析



Y軸: 人口1人あたり道路橋りょう費 (補助事業)
X軸: 市町村道面積



Y軸: 人口1人あたり道路橋りょう費 (単独事業)
X軸: 市町村道面積

検証結果

厚木市の道路橋りょう費が他団体の水準を大きく上回るのは、**単独事業**の実施総量が多いことが原因。(国の財布ではなく、市の財布(市民の税金)で道路を直している割合が以上に高い。)



原因となる具体的な事業は何か? **更に深掘りする**

01 背景と着眼点

あつぎはこんなまち
逃げ場のない包囲網
眠れるデータ資産
既存ツールの限界
目指した姿

02 実証から実装へ

プロトタイプ実証
属人化の壁
チームビルディング
データ構造の標準化
再現性の確保

03 FinStat

FinStatの開発
データ分析全体像
ドリルダウン実演
期待される導入効果

04 事実に基づく合意形成

統計と財務の相互補完
データ基盤の自律的成長
結び

資料 (機能紹介)

多次元相関探索とドリルダウン実演

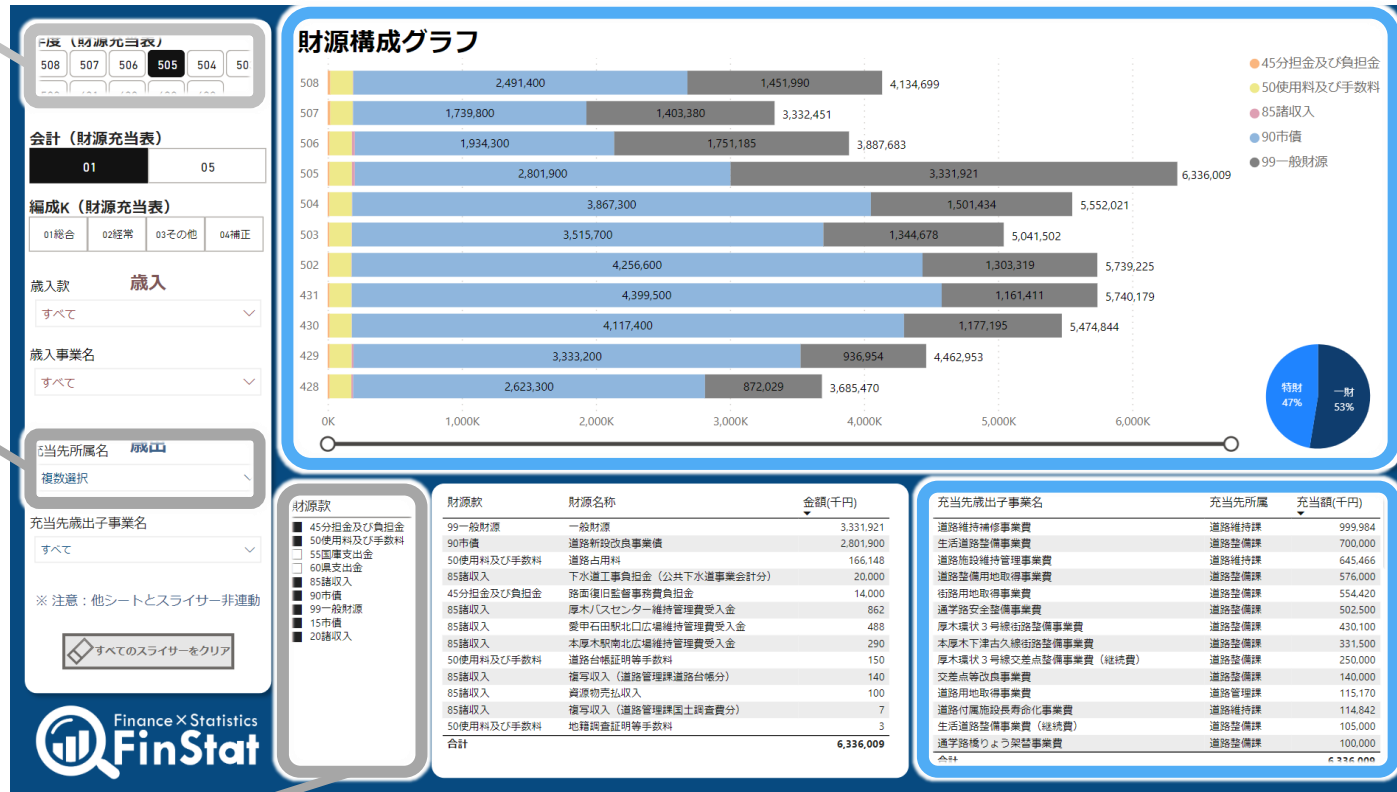
3 「財源構成」のセッティング（道路関係単独事業の抽出）

年度選択
R05

事業課
道路関係全選択

財源選択

国庫支出金除外
※国庫を伴う県支出金もあるため、県支出金は念のため除外



予算
経年推移

執行事業
リスト

国庫支出金を受けずに行う道路関係事業費
(単独事業の抽出)

01 背景と着眼点

あつぎはこんなまち
逃げ場のない包囲網
眠れるデータ資産
既存ツールの限界
目指した姿

02 実証から実装へ

プロトタイプ実証
属人化の壁
チームビルディング
データ構造の標準化
再現性の確保

03 FinStat

FinStatの開発
データ分析全体像
ドリルダウン実演
期待される導入効果

04 事実に基づく合意形成

統計と財務の相互補完
データ基盤の自律的成長
結び

資料 (機能紹介)

多次元相関探索とドリルダウン実演

3 粒度を上げて具体的な事業費・執行伝票を特定（更なるドリルダウン）

| 充当先歳出子事業名 | 充当先所属 | 充当額(千円) |
|----------------------|-------|------------------|
| 道路維持補修事業費 | 道路維持課 | 999,984 |
| 生活道路整備事業費 | 道路整備課 | 700,000 |
| 道路施設維持管理事業費 | 道路維持課 | 645,466 |
| 道路整備用地取得事業費 | 道路整備課 | 576,000 |
| 街路用地取得事業費 | 道路整備課 | 554,420 |
| 通学路安全整備事業費 | 道路整備課 | 502,500 |
| 厚木環状3号線街路整備事業費 | 道路整備課 | 430,100 |
| 本厚木下津古久線街路整備事業費 | 道路整備課 | 331,500 |
| 厚木環状3号線交差点整備事業費（継続費） | 道路整備課 | 250,000 |
| 交差点等改良事業費 | 道路整備課 | 140,000 |
| 道路用地取得事業費 | 道路管理課 | 115,170 |
| 道路付属施設長寿命化事業費 | 道路維持課 | 114,842 |
| 生活道路整備事業費（継続費） | 道路整備課 | 105,000 |
| 通学路橋りょう架替事業費 | 道路整備課 | 100,000 |
| 合計 | | 6,336,009 |



厚木市の道路関係事業（単独事業）リスト

道路関係事業の執行伝票と執行ペース

深掘りして解像度を高め、建設的な議論をする

NG！ 道路関係予算が高いからとにかく削れ！



- A 既存道路の維持補修 …厚木市は物流拠点であり交通量が激しいため、道路の消耗が早い。 ➡ 国庫少。老朽化。やむを得ない。
- B 道路用地の取得 …新規道路・道路改良のための用地取得。新たなストックとなる。 ➡ 将来負担を考慮し精査しよう。
- C 幹線道路整備 …都市計画全体の中で予算化の時期が左右される。新たなストックとなる。 ➡ 将来負担を考慮し精査しよう。
- D 生活道路整備 …住民要望への対応。新たなストックとなる。 ➡ 将来負担を考慮し抑制しよう。

01 背景と着眼点

あつぎはこんなまち
逃げ場のない包囲網
眠れるデータ資産
既存ツールの限界
目指した姿

02 実証から実装へ

プロトタイプ実証
属人化の壁
チームビルディング
データ構造の標準化
再現性の確保

03 FinStat

FinStatの開発
データ分析全体像
ドリルダウン実演
期待される導入効果

04 事実に基づく合意形成

統計と財務の相互補完
データ基盤の自律的成長
結び

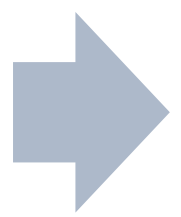
資料（機能紹介）

期待される導入効果

議論を『説得』から『納得』へ



Before



After

経験や勘の否定ではなく、
それらを裏付けるための「事実」を
誰もが即座に取り出せる状態に。

| 01 背景と着眼点

あつぎはこんなまち
逃げ場のない包囲網
眠れるデータ資産
既存ツールの限界
目指した姿

| 02 実証から実装へ

プロトタイプ実証
属人化の壁
チームビルディング
データ構造の標準化
再現性の確保

| 03 FinStat

FinStatの開発
データ分析全体像
ドリルダウン実演
期待される導入効果

| 04 事実に基づく合意形成

統計と財務の相互補完
データ基盤の自律的成長
結び

| 資料（機能紹介）

04 事実に基づく合意形成

「主観」を戦わせる議論から、「事実」を積み上げる対話へ

海に浮かぶ氷山で例えると・・・

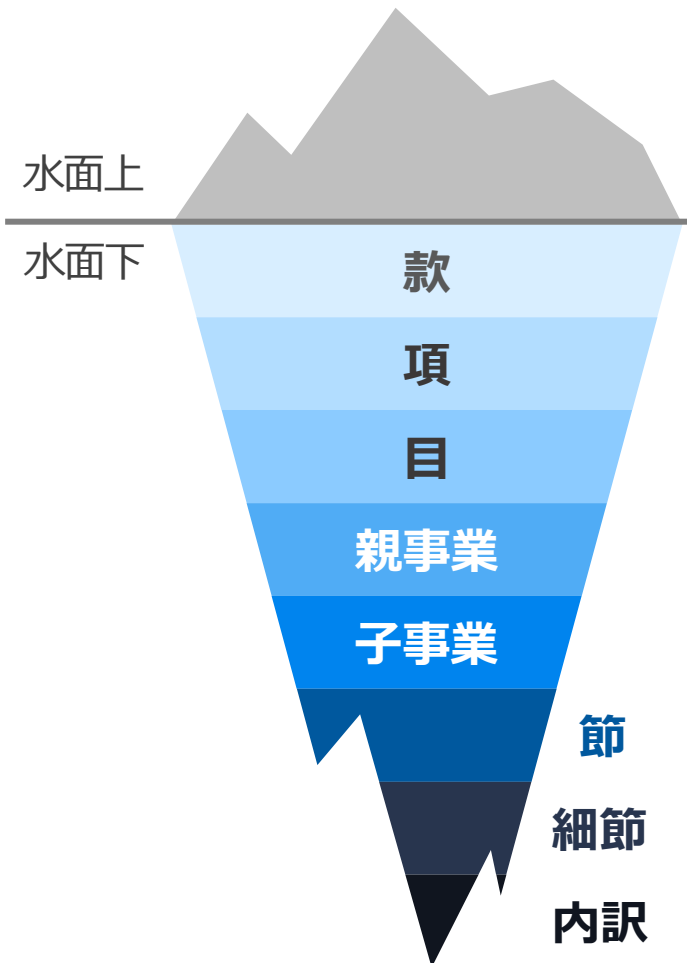


統計データ

全国一律の基準で他団体比較
健康診断
マクロの視点
課題の抽出・気付き

財務会計システムデータ

自団体のみがアクセスできるデータ
精密検査
ミクロの視点
現場の問題の特定



国・県のデータで『課題』を見つけ、
現場（自治体）のデータで『原因』を特定する

国と自治体の二階建て構造で
分断されたマクロとミクロを繋ぐ

| 01 背景と着眼点

あつぎはこんなまち
逃げ場のない包囲網
眠れるデータ資産
既存ツールの限界
目指した姿

| 02 実証から実装へ

プロトタイプ実証
属人化の壁
チームビルディング
データ構造の標準化
再現性の確保

| 03 FinStat

FinStatの開発
データ分析全体像
ドリルダウン実演
期待される導入効果

| 04 事実に基づく合意形成

統計と財務の相互補完
データ基盤の自律的成長
結び

| 資料（機能紹介）

実装を定着させ、次へ繋ぐ

今後取り組みたいこと

庁内オープン化

(公開範囲拡大)

運用サイクルの確立

(技術の平準化・誰もが更新できる形へ)

使い手の拡大・リスキリング

(意欲のある人材の発掘・スカウト・育成)

統計と財務のデータ連結

(異なるデータの物理的な同期)

データ資産の拡充

(組織資産の蓄積・活用場面拡大)

データ文化の醸成

(引き継ぎ熟成させる)

| 01 背景と着眼点

あつぎはこんなまち
逃げ場のない包囲網
眠れるデータ資産
既存ツールの限界
目指した姿

| 02 実証から実装へ

プロトタイプ実証
属人化の壁
チームビルディング
データ構造の標準化
再現性の確保

| 03 FinStat

FinStatの開発
データ分析全体像
ドリルダウン実演
期待される導入効果

| 04 事実に基づく合意形成

統計と財務の相互補完
データ基盤の自律的成長
結び

| 資料 (機能紹介)

| 01 背景と着眼点

あつぎはこんなまち
逃げ場のない包囲網
眠れるデータ資産
既存ツールの限界
目指した姿

| 02 実証から実装へ

プロトタイプ実証
属人化の壁
チームビルディング
データ構造の標準化
再現性の確保

| 03 FinStat

FinStatの開発
データ分析全体像
ドリルダウン実演
期待される導入効果

| 04 事実に基づき合意形成

統計と財務の相互補完
データ基盤の自律的成長
結び

| 資料（機能紹介）

自治体予算編成は、最終的に
「人と人」、「信頼」、「政治」で決まる場面も多い。
だからこそ、「客観的・定量的な現状把握」が大前提と考える。

『主観』を戦わせる議論から、『事実』を積み上げる対話へ。



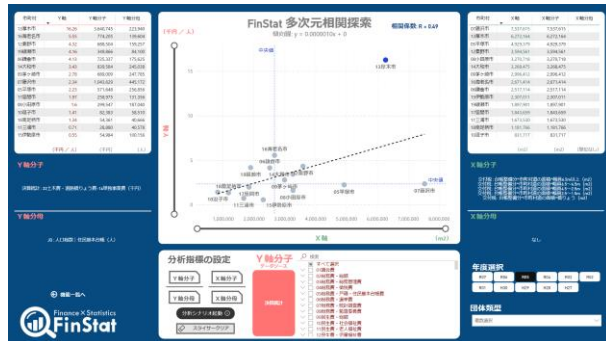
資料 Finance
×
Statistics **FinStat** 機能紹介

統計データ（マクロ）× 財務データ（ミクロ）垂直統合プラットフォーム



総務省統計局データ利活用センター「令和7年度地方における課題解決に資するデータ利活用支援事業」採択プロジェクト
 厚木市 × 総務省統計局 × 坂元准教授（大手前大学） × 株式会社日本総合研究所 × 神奈川県市町村課
 FY2025 MIC Project | Atsugi City × Associate Professor Sakamoto (Otemae Univ.) × JRI × Kanagawa Pref.

統計データ（マクロ）



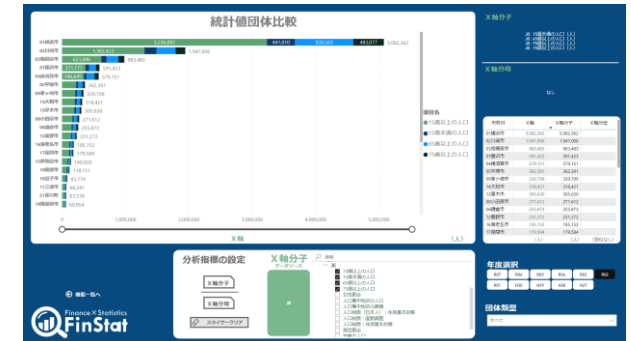
A 多次元相関探索

データ×財務データ 団体比較散布図
 ➡X軸・Y軸の項目を分母分子や項目を自由に組み合わせながら、自治体間の統計・財務データを基にした水準比較をする。



B 統計値経年比較

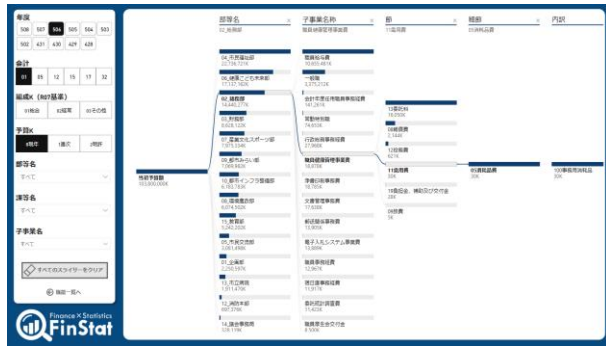
FinStat搭載の統計データを確認する
 ➡FinStatに取り込んだ地方交付税基礎数値、決算カード、e-stat、JapanDashboard等の統計データの経年推移を確認する。



C 統計値団体比較

FinStat搭載の統計データを確認する
 ➡FinStatに取り込んだ地方交付税基礎数値、決算カード、e-stat、JapanDashboard等の統計データの団体比較・内訳を確認する。

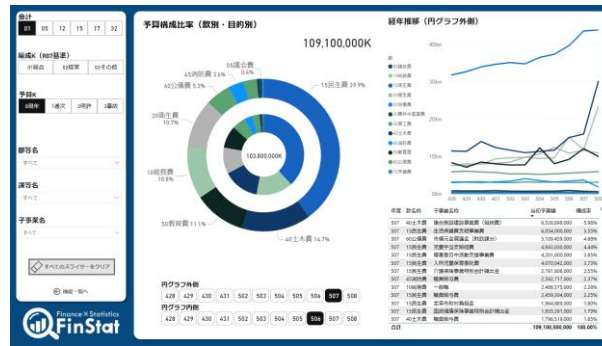
財務データ (ミクロ)



①分解ツリー

予算を構成要素ごとに階層的に分解する

▶ツリー表示により、予算の構造や規模感を、構成要素ごとに全体から詳細まで様々な階層で分解表示することで把握する。



③歳出_目的

予算の構成比率を目的別分類で分析する

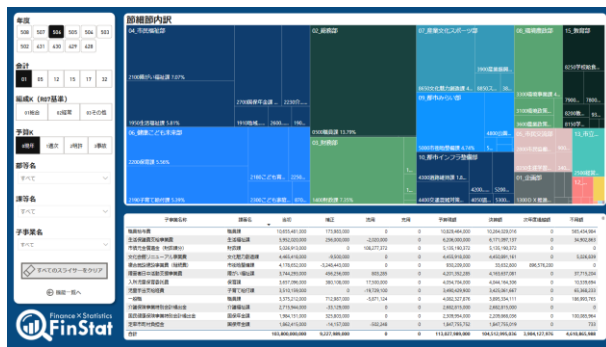
▶予算をドリルダウンやスライスをしなが、目的別分類における構成比率や金額の経年推移を表示する。



⑤予算決算の状況

予算・決算・執行状況の経年推移を分析する

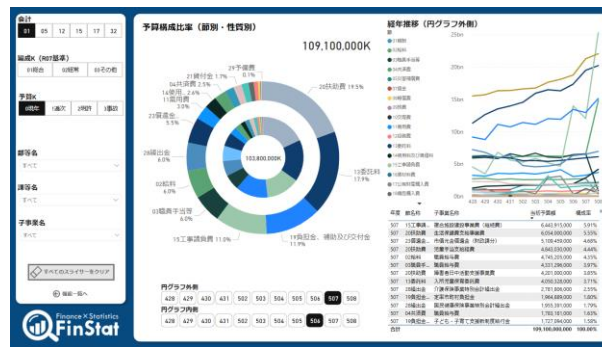
▶予算をドリルダウン・スライスをしなが、当初予算、補正予算、流用、決算、繰越、不用額等の経年推移を表示する



②所属別予算決算構成比

予算全体の中で何が大きな割合を占めているか規模感を把握する

▶ツリー表示で予算全体から詳細までの規模感を、確認したい切り口に合わせて動的にデータを掘り下げる。



④歳出_性質

予算の構成比率を性質別分類で分類する

▶予算をドリルダウンやスライスをしなが、性質別分類における構成比率や金額の経年推移を表示する。



⑥子事業詳細分析

予算の執行事業の詳細な分析をする

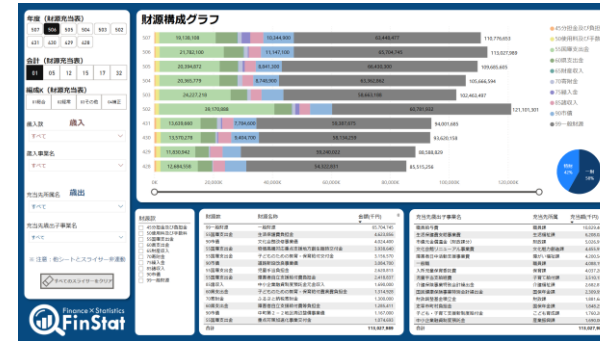
▶予算の子事業(執行事業)ごとに科目(節・細節・内訳)の状況、事業目的、積算内訳、前年度との違いを表示する。

財務データ (ミクロ)



⑦年度別負担行為ペース

予算執行何額のペースを年度間で比較する
 ➡予算を様々な階層でスライスしながら、月別の執行何額を年度別にグラフ化することで、執行の傾向やペースを確認する。



⑨財源構成

予算上の財源充当関係を経年で把握する
 ➡予算上の財源充当関係や財源構成を、ドリルダウンやスライスをしながら経年推移を表示する。歳入・歳出面からの検索可。



⑧負担行為伝票&ペース

予算執行何伝票と子事業執行ペースを確認する
 ➡予算執行何伝票（支出負担行為伝票）を確認するとともに、子事業（執行业業）別に年度内の執行何額ペースを表示する。

⑩積算基礎検索

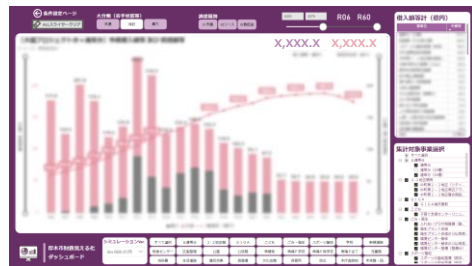
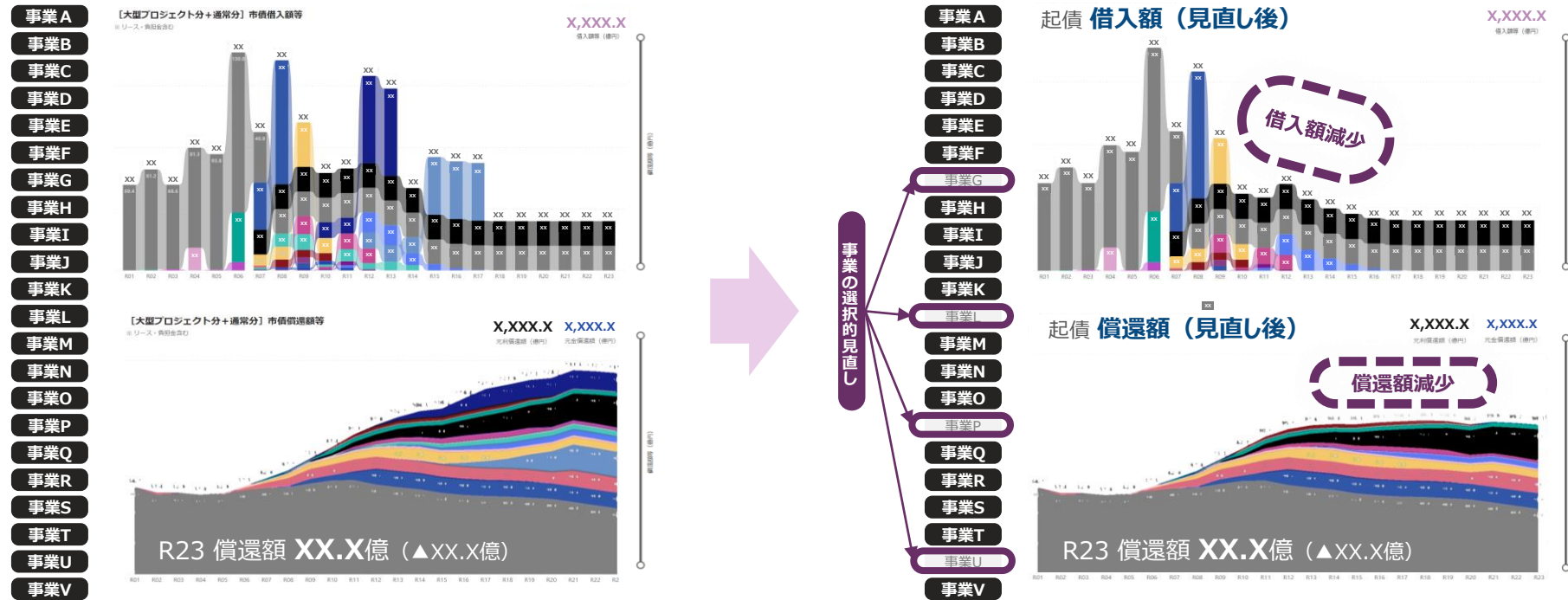
予算積算基礎を横断検索する
 ➡予算全体をキーワードで横断検索し、類似の積算を検索・比較する。また、特定の積算基礎の経年推移を確認する際に用いる。

厚木市財政見える化
ダッシュボード

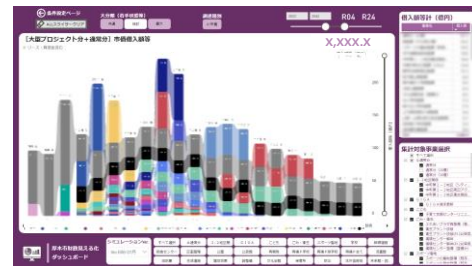
(財政シミュレーション編) ※ 参考・PowerBI別システム

自治体財政運営の肝となる起債借入・償還 を、PowerBI上で実施事業を選択することによりシミュレート

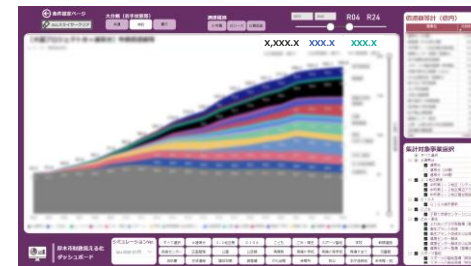
※ 今後、金利変動による影響を what-if 分析で反映できるように機能拡張を予定。



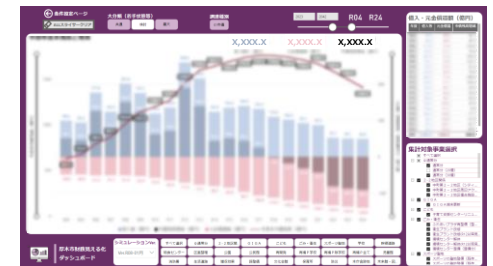
借入・償還



借入



償還



年度末残高と増減